

日本語

外国にルーツのある家族のための

特別支援学校 ガイド



目次

特別支援学校の仕組み	1
特別支援学校の種類	1
学びの内容	2
特別支援学校と特別支援学級の特徴	2
学校での支援例	3
こんな成長が見られました	3
保護者の方のコメント	3
Q&A	4
相談・問い合わせ	6

特別支援学校の仕組み

参考 茨城県教育委員会『みんなとともに』
<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/tokubetsushien/siryou/2022minnatotomoin.pdf>



専門性を生かした特別支援教育を行います。

一人一人に応じた指導

- 小学校、中学校等の教育課程に準ずる教育を行うとともに、障害による学習上または生活上の困難を改善・克服し、自立を図るための学習活動を行います。
- 障害の状態に応じて、弾力的な教育課程を編成し、個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいた指導や支援を行います。

進路選択のサポート

- 高等部卒業後の生活に向け、企業への就労や福祉サービスの利用等、実態に応じた進路選択ができるようサポートします。

専門性の高いスタッフと充実した施設

- 障害に配慮した施設環境の中で、専門性の高い教員が、少人数の学級で指導します。

特別支援学校の種類

視覚障害

聴覚障害

知的障害

肢体不自由

病弱

という種別により、学校が分かれています。

今回のガイドでは、

県内に数が多い **知的障害特別支援学校** について主に紹介します。

学びの内容

知的障害特別支援学校について

基本的な生活習慣（着替え、食事、排せつ、手洗い）や集団生活をするうえで必要なこと（挨拶、言葉遣い、手伝い、時間や決まりを守ること等）について、毎日時間を設定して指導します。

知的障害の特性に合わせ、実際的な生活経験を通して学びます。季節に応じた学習や、遠足等の行事に応じた学習を行います。中学部と高等部では、将来社会に出て働くための基礎的な態度やスキルを学ぶため、作業学習を行います。

言語や文字、数量に関する基礎的な学習を通して、学んだことを生活に生かす力をはぐくみます。

自立活動という、個々の子どもの障害による困難さを改善・克服するための学習をします。健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションといった領域から個別の学習課題を設定します。

高等部では、卒業後の進路選択のため、校内実習や現場実習を行います。現場実習では実際に地域の企業や福祉施設に通わせていただき、仕事や作業等の体験学習を行います。

特別支援学校と特別支援学級の特徴

公立の小中学校の通常の学級と比べると、特別支援学校や小中学校の特別支援学級の1学級あたりの児童生徒数は少ないです。障害特性や状態等に合わせて、スモールステップで本人のできることを増やしていけるよう支援します。また、進級や進学時には、個別の指導計画や個別の教育支援計画等をもとに、本人や保護者の同意を得た上で、関係者間で十分に引継ぎを行います。

学校での支援例



◀ 音声言語だけに頼らず、見てわかるイラストや写真カードも併せて提示することで、理解を促します。やってはいけないことだけでなく、どのように行動すると良いのかも具体的に伝えます。日本語だけでは理解が難しい場合には、本人の分かる言語で示すこともあります。



◀ 日直当番が、朝の会や帰りの会を進行するときの手掛かりとする手順表です。イラストと平仮名で示しています。やることや言うことが分かったら、

みんなの前でも安心して司会進行ができます。



◀ 登校後の荷物整理と下校前の帰りの支度は、手順表を使いながら教師がやり方を教え、できるだけ自分で進められるようにしていきます。一つやったら花丸を自分で貼り、次にやることに自分で

気づけるようにします。全部花丸を貼れると、達成感をもつことができます。



こんな成長が見られました

保育所に通っているころは、好きなおもちゃで遊び続けたくて、朝の集まりの時間になってもおもちゃを片付けられず、時には暴れてしまうこともありました。特別支援学校に入学後は、好きなおもちゃや活動を励みに、時間になったら片付けて朝の会に参加する等、少しずつ教師との約束を守れるようになってきました。朝の会で挨拶をしたり、友達の名前を呼んだり、教師と手遊びをしたりすることを楽しみにしています。



特別支援学校の先生から、ひとりのお子さんが保育所にいたときの様子と特別支援学校小学部に入学した後の様子を見てのコメント

保護者の方のコメント

私の子どもは、小学部の低学年で特別支援学校に転校しました。文化祭でステージ発表に参加している姿を見て、びっくりしました。これまでは、友達と一緒に行事に参加するところを一度も見たことがなかったからです。友達や先生と劇のダンスをする姿を見て、とてもうれしかったです。





&



Q 入学前に学校の見学はできますか？

A

保護者の方は、お子さんが在籍している保育園や幼稚園、小中学校に、特別支援学校の見学希望を伝えてください。公立の園や学校の先生は市教育委員会を通して、私立園の先生は直接特別支援学校にその旨、ご連絡ください。

新就学児については、体験入学も実施しています。居住地の市町村教育委員会を通してお申込みください。

Q 特別支援学校への転入学を検討している場合、どのような発達検査を受け、どのように就学手続きを進めればいいですか？

A

発達検査等を含め、就学手続きについては、居住地の市町村教育委員会にご確認ください。知的障害特別支援学校の場合、入学の前提となる知的障害があるか、教育相談の際に確認いたします。

- ①医師から知的障害であると診断を受けていること、
 - ②児童相談所で知的障害の判定を受けて療育手帳を取得していること、
 - ③小学校で知的障害特別支援学級に在籍していること、
- のいずれかの条件に該当することが必要です。

Q 特別支援学校へはどのように通いますか？

A

特別支援学校によってはスクールバスを利用することができます。通学区域内の特別支援学校にお尋ねください。バス停までは保護者が送迎し、バスの添乗員に引き渡すようお願いしています。バスは定刻に発車するため、遅刻してしまった場合は学校まで保護者が送迎することになります。また、お子さんの状況によっては、保護者による送迎や、公共交通機関等を利用して通学（自力通学）する場合があります。

Q 放課後の過ごし方は？

A

スクールバスで帰宅する児童生徒もいれば、保護者が就労されている場合などは放課後等デイサービスを利用している児童生徒もいます。放課後等デイサービスについては、居住地の市町村福祉課にご相談ください。

Q 公立小中学校とカリキュラムは一緒ですか？

A 知的障害特別支援学校では、公立小中学校とはカリキュラムが異なります。特別支援学校学習指導要領を踏まえ、知的障害の特性等に応じたカリキュラムを編成し、個別の指導計画に基づいた指導・支援を行います。

Q 特別支援学校に入る時期はいつですか？

A 小学部1年生からの入学、または、希望がある場合には、基本的には学年が上がる4月に転学となります。前年度中に、特別支援学校の見学や体験学習等を計画的に行いながら、お子さんや保護者が特別支援学校の教育について十分に理解をして、入学・転学の手続きを進めることが大切です。転入を検討している場合は、在籍する小中学校や市町村教育委員会と十分にご相談ください。

Q 特別支援学校から小中学校へ転学することも可能ですか？

A お子さんの障害の状態や発達段階等により、小中学校へ転学することも考えられます。その場合にも、基本的に4月の転学となります。在籍する特別支援学校や市町村教育委員会と十分に相談を重ねるとともに、転学先の小中学校の見学や体験学習等も計画的に行っていくことが大切です。

Q 特別支援学校高等部を卒業すると、高等学校卒業とみなされますか？

A 高等学校卒業とはみなされず、「特別支援学校卒業」となります。

Q 特別支援学校では、外国にルーツのある児童生徒やその保護者への配慮はありますか？

A 一律に決められた対応はありませんが、必要に応じて、お子さんとの日常的なやりとりでの翻訳アプリの使用、保護者面談の際の通訳派遣などを利用している学校もあります。文化・言語の違いなどに関して、学校でどのような対応ができるか一緒に考えていきます。まずは在籍する（予定の）特別支援学校にご相談ください。

相談・問い合わせ

認定NPO法人茨城NPOセンター・commons

commonsは子どもの発達に関する専門の相談機関ではありませんが、英語、ポルトガル語、タガログ語、ウルドゥー語での相談ができます。相談があれば、専門機関と連携して対応します。

電話 0297-44-4281

住所 茨城県常総市水海道橋本町 3571-1

E-mail global@npocommons.org

Website <https://www.commonsglobalcenter.org/>



外国にルーツのある家族のための 特別支援学校ガイド

2023年3月 発行

編集・発行者

認定NPO法人茨城NPOセンター・commons

協力

茨城県教育庁学校教育部義務教育課・特別支援教育課、
茨城県立伊奈特別支援学校

デザイン・DTP

篠崎智子

この冊子は茨城県教育委員会委託「グローバル・サポート事業」の一環として作成いたしました。